

本県の障害者福祉施策の推進を図りました！

本県の障がい者の方々の福祉・医療・教育の充実とともに、社会参画並びに社会的自立を可能にするため就労支援に取り組んできました。障害のある方々が住み慣れた地域で安心して生活ができる社会の実現をめざします。

○12年2月『予算特別委員会』において、「発達障害に対する本県の対策について」質問。

○14年10月『決算特別委員会』では、「特別支援学校卒業生の就労状況と進路保障について」質問。



14/7 太宰府市特別支援学校視察

本県の環境問題の進展に努めました！

福岡県は、北九州市とともに公害を克服した英知と技術を持っています。その蓄積された技術、研究・学術などを海外にも供与、連携、提携、販売するなど、「環境立県」として経済的活力をも高めてきました。

○13年10月『決算特別委員会』において、「PCB廃棄物の処理について」質問。

○14年2月『予算特別委員会』では、「J-クレジット制度（CO2排出削減量・吸収量を認証する制度）について」を質問。



14/9 PCB処理「JESCO北九州」視察

県立高校のICT化の推進を求めました！

県立高校の学校ICT化については、パソコンやプロジェクター、電子黒板、デジタル教材などの備品整備を進めました。また、オンライングリッド授業などに対応するための専門教室の整備にも努め、更に教員の研修も充実させました。



13/11 大野城中学校「ICT教育」視察

飲酒運転撲滅対策を図りました！



12/12 県庁ロビー
飲酒運転撲滅「生命のメッセージ展」

議員提案による全国初の罰則付き「飲酒運転撲滅条例」を制定し、12年9月21日より全面施行。条例附則に「施行後3年以内に見直しを行う」と規定されており、福岡県議会では14年10月2日に「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例見直し調整会議」を設置し、同条例の改正に向けて鋭意検討を行っています。

私の政治スタンスは「中庸」です。

「中庸の政治」は誠であり、それを志します。

中庸とは、もともとは孔子の言葉で、原文は「中庸の徳たる、其れ到れるかな。民鮮（すく）なきこと久し」とあり、「不足でもなく、余分のところもなく、丁度適当にバランスよく行動できるということは、人徳としては最高のもの」という意味です。すなわち、偏ることなく、常に変わらない普遍性を持ち、過不足がなく調和がとれているということです。

ところが、ややもすれば過不及の中間をとりさえすればよく、中途半端、平均値、足して2で割るといふふうに誤解される向きもあります。しかし、中庸の真の意味は、その時々を研ぎ澄ました感覚でみる力を持ち、偏った思想性に左右されず、人々の生活に何が大切かを正しく判断する力を持つということです。

政治は、いずれかの勢力に過度に偏り過ぎると、必ず社会に歪を生みます。社会的支援が必要な方々（いわゆる社会的弱者）が地域で安心して暮らしていける社会をつくることこそ、真の政治の使命だと思います。

米国の議会調査局は本年1月15日までに『日米関係の報告書』を発表しました。その中で、安倍政権の経済政策を評価する一方、歴史問題では「周辺国との関係を悪化させ、米国の国益を損なわせたかもしれない」との懸念を示すとともに、安倍首相を「ナショナリストとして知られる」と紹介し、「日本帝国の他のアジアの国々への侵略や虐待を否定する歴史修正主義的視点を持っていることを示唆している」との見方を示しています。

国民の多くが反対や懸念を示している「特定秘密保護法」の強行成立、「集団的自衛権」行使容認閣議決定など、安倍首相の前のめりともいえる政策には危うさを感じるとともに、安倍内閣となり、他者を認める寛容さがなくなりつつあります。社会的弱者や外国人などを排除する風潮が強まり、社会的格差、貧困の増大と合わせ、社会の不穏さが増しています。

こうした時代にこそ、中庸の政治が必要だと思います。